1月15日、22日、29日、2月5日のＳＳＧについて

◆SSGユニットⅡ④は計3 時間（論文作成）、ユニットⅡ⑤は計4 時間（ポスター作成＆発表）

SSGは下記の日程で行います。計7時間です。

【ユニットⅡ④】（1月）論文作成

1月15日（水）	論文を作成する（その1）
1月22日（水）	論文を作成する（その2）
1月29日（水）	論文を作成する（その3）

【ユニットⅡ⑤】（2月～3月）ポスター発表

2月 5日（水）	論文を完成させる／ポスターの原稿を作成する
2月12日（水）	ポスターを作成する
2月26日（水）	クラス内でポスター発表を行う（※海外研修の参加者は不在）
3月18日（水）	SSH成果発表会　※1・2年生合同

2月5日をめどに各自で論文を完成させてください。その後、各班でポスターを作成し、3月18日に成果発表会を行います（SSG 最終回）。

今後の予定を見ると分かるように、1月は模擬試験の準備とSSGのまとめを並行して進めなければなりません。どちらも大切です。できるだけ SSG の授業の中で全てが終わるように、見通しをもって取り組んでください。どちらも成功させましょう！

◆SSG の論文の基本的な構成

SSG の論文の構成と枚数は、下記の通りです。今回の論文作成は、大学入試における小論文対策や記述力養成も兼ねています。原則として本文は手書きです。論文は必ず全員が作成し、提出してください。

図やグラフや写真等の添付も可とします。図やグラフを作成する場合は、パソコン等で作成し、プリントアウトしたものを貼り付けてもかまいません。

図やグラフも本文に含みますが、本文が極端に少なくならないようにしてください。本文におさまらない資料は、論文の最後に「付録」として添付してください。本文中にいっさい図表を入れず、巻末の「付録」に全てまとめる形でもいいでしょう。

課題研究はグループで研究を進めてきたので、同一の班であれば、論文は共通の内容になると思いますが、レイアウトや表現の仕方、考察部分や今後の展望等の記述については、積極的に各自で工夫し、各自の視点を入れ、よりよいものに仕上げてほしいと思います。

0. 表紙（タイトルおよび論文の要約 200 字）　――1 枚
1. 序論（研究テーマの背景、リサーチクエスチョン、研究の意義、仮説とその根拠など）　――1 枚
2. 研究手法（その手法を選んだ理由、調査・実験の目的、研究対象、調査・実験の手順など）　――1 枚
3. 結果（データ、図やグラフ、結果の説明、結果の要約など）および考察（結果に含まれる事実、次の研究につながる問い）　――1 枚
4. 結論・展望　――1 枚
5. 引用文献・参考文献　――1 枚
6. 付録（本文中に入らない資料などがあれば添付する）

※A4 サイズ表紙１枚＋本文５枚（図やグラフなども含む）＋付録

なお、表紙にある要約は、論文が完成してから作成するとよいでしょう。

以上の論文作成を経て、2 月中旬にポスターを作成します。中間報告会で作成したものに、もう 1 枚追加する形で作成してもよいですし、新たに作り直すのでもよいでしょう。作成したポスターは、3 月 18 日の成果発表会（SSG 最終回）で披露します。3 月 18 日は本校 SSH 史上最高の発表会にできるといいですね。ぜひそうしましょう。

◆課題研究（江風 SS および江風 SSG）の質をさらに向上させるには？（学年通信より）

① アンケートの取り方について、目的と方法を見直す

今年の SSG は、昨年よりもアンケート調査を実施する班が増えました。82 班「全世代の人が親しめるお札をつくろう！！」はアンケート調査の活用に成功している例ですが、必ずしも全ての班が成功しているというわけではありません。アンケートをとっても、それを客観的な分析に活用できなければあまり意味がありません。まず、何のためにアンケート調査を行うのか、目的を具体的かつ明確にしましょう。次に、できるだけ数値化しやすくなるような問い方を心がけましょう。なお、性別・年齢などの「属性」を明確にすると調査はより緻密になりますが、そうすると「個人情報」の取り扱いという新たな問題が生じるので、これはこれで細心の注意が必要です。以上の「目的」「方法（問い方）」「個人情報」という点に今後注意しましょう。余談ですが、大学では文理を問わず統計学（データサイエンス）を学ぶ機会がどんどん増えるだろう、とのことです。将来の大学での学びまで見据えて、課題研究に取り組んでください。すでにアンケート調査を実施している班は、自分たちの調査がどのレベルのものなのか点検し、今後の改善につなげてください。

② 文献調査の引用は、明記する

文献調査をした際に参照した文献や HP は、当然明記しなければなりません。他人のアイデアの盗用や剽窃にならないようにしてください。モラルが問われます。過去の先輩の研究を引き継ぐ場合は、どこまでが先人の研究で、どこまでが自分たちの研究なのか、はっきり区別する必要があります。自分たちのオリジナリティーを明確にするためにも、他の先行研究を引用する場合は細心の注意を払いましょう。

③ 事実の分析や考察の際に気をつけるべきこと――因果関係は成り立っているのか？

相関関係とは「一方の値の大きさと、もう一方の値の大きさに関連性がある」関係のこと。A と B の間に相関関係がある場合、A（原因）→B（結果）という因果関係があると思われがちですが、必ずしも因果関係であるとは限りません。A と B の間には直接的なつながりはなく、偶然そうなったのかもしれません。A（原因）→B（結果）ではなく、実は B（原因）→A（結果）なのかもしれません。また、A と B との間に関連性があるように見えるのは、実は意識されていない C が原因になって A・B という二つの結果が生じているのかもしれません。このように、因果関係と相関関係を安易に混同しないことが、結果の分析や考察では必須です。仮に何らかの因果関係があるとしても、A と B の間に多くの因果関係が隠されているかもしれません。A と B との関係の説明に「飛躍」があってはなりません。自分たちの分析や考察をもう一度見直してください。そしてそれらを総合して出した「結論」が正しいかどうか、もう一度確認してください。

④ 文化的・社会的な背景を説明する（特に文系 SSG）

81 班「LGBT を考えた理想の制服をつくる」、82 班「全世代の人が親しめるお札をつくろう！！」は優れた研究ですが、アメリカ人に説明をするときには、背景となっている日本の文化・社会のことを十分に説明する必要があります。理系の実験と異なり、文系の研究対象は人々の生活様式や社会通念や心理などに関わることが多いと思います。したがって、背景となる文化・社会を説明しないと、外国人には全く共感が得られません。しかし相手が同じ日本人であっても、そこに目配りをして、丁寧に論証をしようとしている研究は、多くの人の共感を得やすく、そのぶん評価が高くなるはずです。**「人間」を意識し、「人間」を大切にすること。**文系の SSG は特にそういうことに気をつけてほしいと思います。

◆特に文系ＳＳＧは下記に注意をしてください！ （再掲載）

□班の中で研究結果（事実）の共有はなされているか？
□文献調査の引用は明記しているか？
□アンケート調査をした場合、その方法と結果の考察は適切か？
□リサーチクエスチョン等にかかわるキーワードは、正確な定義がなされているか？
□文化的・社会的な背景は説明されているか？
□結果の考察は論理的になされているか？
□研究方法や考察はできるだけ数値化に努め、客観的に結論を出そうとしているか？
□今後の見通しは？
□そもそも何のために研究をしたのか？
研究意義が強調されているか？　など

あともう一歩だ！　画竜点睛欠くことなかれ！！！！！！！！